

## 【3班 活動前半のまとめ】

### ■これまでの活動で何を見たか

今後半年間、「水」についての展示制作を行っていくにあたり「水」についての基礎学習を行った。基礎学習のために国立科学博物館をはじめとして、いくつかの科学館や研究所を見学した。

私たち3班は見学にあたり、以下の2点を意識して見学を行った。

- ①自分たちの展示制作に活かすことのできる、展示物を見つけ検討する。
- ②「水」についての基礎学習として、最低限の知識を身につける。



#### ①自分たちの展示制作に活かすことのできる、展示物を見つけ検討する。

##### ●国立科学博物館

- ・色や光を活かした展示
- ・経験型（体験型）の展示が多い
- ・展示物についている解説書きは少ない
- ・展示物の近くにタッチパネルがあり説明板以上の事を調べられる

##### ●日本科学未来館

- ・子供向け展示から高度な展示まで幅広く展示
- ・自分自身が体験する展示が多い
- ・解説してくれる方がたくさんいて気楽に質問できた
- ・展示と展示のつながりが分かりやすい

##### ●東京都水の科学館

- ・子供向けにわかりやすく展示
- ・実験の展示、見学者が実験できる
- ・科学未来館と同じく、体験する展示が多い
- ・全体的に楽しむ展示だった

##### ●独立行政法人 海洋研究開発機構 横浜研究所

- ・子供には分かりにくい高度な展示
- ・映像の展示が多い
- ・スーパーコンピュータの解説は実際の部分を使い、分かりやすく説明
- ・解説してくれる係りの方がいてくれるといいと思う

——→展示を作るにあたり大切なことは、以下の4点であることが分かった。

- ◇わかりやすく伝える
- ◇つまらない展示ではいけない
- ◇老若男女、誰にでもわかりやすく伝える
- ◇見る人が参加し体験する展示も重要

## ②「水」についての基礎学習として、最低限の知識を身につける

### ●水の物性

- ・温まりにくくて冷めにくい
- ・水圧 深海と地上の環境の違い(深海ではカップヌードルのカップが縮んでしまう！)

### ●水の循環

地球上への水の循環、海・雲・川がみんな繋がっている。

- ・海流 暖流と寒流、深層海流

### ●身近な水について

- ・日常生活に使う水

私たちは日常生活で一日約240Lの水を使っている。(お台場有明給水場の見学。)

- ・体内の水

人間の体内の水分量は歳を重ねるごとに減っていく。赤ちゃんは約80%。大人男性は約60%の水分量であるといわれている。



## ■私たちの展示に何を活かすか

国立科学博物館アフタースクールの基礎学習期間が終了し、前回までにいくつかの博物館、科学館を見学してきた。見学してきた展示の中で、私たちの展示制作に活かせる点を抽象化してまとめた。

### ●展示に関して工夫されていた点

#### ・色彩の使い方

---国立科学博物館展示室内での展示構成について(B2F)

赤→青→白と展示部ごとに照明の色が変わる(照明の色彩効果を用いている)

「赤」→地球の形成、岩石の展示(マグマのイメージ)

「青」→生命の誕生、初期生命の化石(海のイメージ)

「白」→人類の誕生、現生人類の世界中への拡散とその分布、また文化の展示(文化の発展)

---一方で...

日本科学未来館の展示構成は色彩によって展示物の統一感を出しているわけではない。

なぜならば、未来館と科博はコンセプトが異なる。

・国立科学博物館は過去の出来事を、時系列にまとめて扱っている。

・未来館は、最近の研究成果をもとに、短期間のうちに絶えず展示が作り変えられる。

---国立科学博物館での私たちの展示制作においては色彩を上手に使いこなす必要がある。

#### ・実際は見られないものを見せる

---国立科学博物館の展示の工夫

海底にマリンスノーが堆積していく様子を映像として展示

海底にマリンスノーが堆積していく過程は、本来ならば深海に潜らない限りみることができない。

---しかし、

映像を用いて、画面を大きな窓のようにして展示し、実際に自分の目で見ているような演出をしている展示があった。

---私たちの展示制作においては実際には見られないものを視覚化することが必要である。

### ●グループとしての研究

#### ・自己満足では駄目である

一方的に伝えない、見る人の立場に立つ

#### ・チームは協力し合う

ひとりで突っ走らない、しっかり話し合い目標を共有する

チームとしての活動なので、ひとりが納得しても他の人が同調しなければチームとしての見解が得られない。仲間割れが起こらないよう、展示制作を行っていく。

## ■今後何をつくるのか

前回までの活動の中で展示制作について班員の間で具体的な話がなされたが、3班としての考えが、まだまとまっていないので今後はさらに互いの考えを深めていくことが必要であると感じている。

